



113th CRC Seminar

(第8回 植物生命科学セミナー)

講師の彦坂幸毅先生（東北大学）は植物生態学を専門とされますが、「葉や個体の光合成・物質生産にかかわる性質がどのように決まっているのか」という生理学的な観点から植物の生態を研究されていることが特徴です。生理生態学の研究はフィールドとラボの研究を繋ぐ非常に重要な分野である一方、広範囲な知識を要するためか、本格的に研究に取り組んでいる方は世界的にも限られます。彦坂先生はこの分野の第一人者になります。大学院の「植物生命科学特別講義」の一部として実施いたしますが、興味ある多くの方のご参加をお待ちしています。

彦坂 幸毅 教授

(東北大学・生命科学研究科)

「自然変異に学ぶ適応のしくみ」

時間：2017年12月8日（金）14:45～16:15

場所：学生センターC棟1階GC1講義室

同一種内でも集団間には遺伝子変異があり、その一部はそれぞれの集団が生息する環境への適応の結果であると考えられる。特定の環境へ適応・分化した結果、生理・形態的な違いが固定されたものをエコタイプとよぶ。一般にエコタイプ間では交配が可能であり、適応に関係した形質以外の形質に大きな違いがないことが期待される。我々は異なる緯度・標高から得たエコタイプの形質やゲノムを比較することによって適応のしくみを解明しようとしている。また、得られた遺伝子情報を利用して、特定の環境で優れたパフォーマンスをもつ強化作物を生み出すことができるかもしれない。本講演では、近年の我々の研究成果を紹介する。

(問合先：河村 幸男：ykawa@iwate-u.ac.jp)